

## 糖尿調査のもつ意義

上市厚生病院長 越 山 健 二

富山県農村医学研究会は事業計画の一つとして、昭和47年から3ヵ年間、農村婦人の貧血調査を施行し、引続き昭和50年度より、糖尿調査を開始している。既に県下の農家世帯3万人を目標に初年度は25,696名について調査を行ない、その結果は第25回農村医学会(福島市)に於いて発表した。今後これにつき各種の調査、研究が行なわれ、種々の保健対策が実践に移されてゆく事になろうが、この調査のもつ意義について私見を述べてみたい。

### ○糖尿病は急激に増加した国民病

近年糖尿病が増加しているとの報告が多い。その数は200万人とも推定され、今後5年後には更に倍増するともいわれている。戦前、戦後に多発した結核は減少し、活動性結核患者は昭和48年末で52.7万人と、もはや国民病の汚名から外れたが、糖尿病はこれに代わる趨勢にあるといえる。

結核は伝染病、糖尿病は代謝疾病でその原因や病態等基本的に異なるものであるが、社会体制と大きなかわりがあるという点では大きな共通点があると思われる。

### ○環境の変化と糖尿病

戦後30年高度経済成長の達成は、世帯に類例をみないものといわれるが、それによって人間をとりまく生活環境の変化は著しく、特にそれが生命や健康に及ぼした影響は計り知れないものがある。

こんにち農村も含めて、食生活は大きく変

化し、国民摂取カロリーは増加、反面、能率化・省力化・機械化の促進により重労働は減少し、車社会の進展は、消費カロリーの減少をきたしている。所謂食べすぎ、運動不足が糖尿病や糖尿性体質人口の増加をきたしたと思われ、保健対策上憂慮すべき多くの問題を提起している。肥満体は老若男女をとわず増加し、全般に体力、気力の低下が指摘され、糖尿の発病因子と関連のある成人病や高齢者医療の対策がのぞまれている。

### ○学術的な意義

このような事から、糖尿病の発病の頻度やその実態、生活環境、生活水準との関係を調査、検討する事は、大きな意味があると考えられる。

### ○あらゆる年齢層の健康づくりと老化防止

糖尿病は学問的には尚、その本態や診断、治療について多くの未解決な問題が多くいま尚、研究の段階にあるが、現在ではある程度予防が可能であり、また、重症化を防止出来る慢性疾患であるといわれている。即ち、糖尿病の予防及び治療は栄養の摂取と運動(労作)の二つのコントロールが基本的に重視されるものである。しかも長期間にわたって行なう必要性があり適当なバランスのとれた栄養と労作の習慣が要求される。また、糖尿食は長寿食(保健食)ともいわれ適度の運動、労作と相まって、この二つは糖尿病に限らずあらゆる年齢階層の健康維持増進にとって必要且つ

緊急な課題であると考える。

#### ○栄養と食生活の見直し

近年食生活は粗放化され、食品やその調理、食べ方等にも問題があり、豊かな食品の中で、貧血症の多発がこの学会でも指摘された。糖尿食の普及は、食物に対する価値の再認識や、食生活の見直しにもなると思われる。

老令化社会を迎える日本にとって、老いて益々カクシャクとした、バラ色の老後が要求されている。多発する高血圧、高脂血症、動脈硬化、脳卒中、心疾患等の防止にもなり、適当な労作の習慣をつける事は重要である。

#### ○チームワークの医療

糖尿病は発病まで時間がかかり、潜在している事も多い。また発病しても専門医の指示や投薬にも限界があり、継続した病気の管理が必要である。当人は勿論、家族、医師以外の保健婦、生活改良普及員等のチームワークによる対応が要求される。今日「専門の孤立」が指摘されているがこの調査により専門の連携、家族や地域の連帯が大きく促進される事も考えられる。

食糧危機が叫ばれている。食糧資源の有効な活用もまた必要である。

以上の諸点からこの調査の指向する意義は極めて高く、その波及効果は多方面にわたって極めて大きいものと考えている。